

## 2010年度 JT 青少年育成に関する NPO 助成事業

パークパートナーニュースレター 第2号 2010年 10月3日



# かえるのすみか



永野川緑地公園のクローバー  
イラスト 荻野聡子

荻野さんは10月24日、栃木市総合運動公園で催される《とちぎ協働まつり》「冒険！体験！大発見！」のエリアで「公園の草花を描こう」絵画教室を開きます。

### パークパートナー

とちぎ市民活動推進センターくらら内  
〒328-0043 栃木市境町19番3号  
TEL(0282)20-7131/FAX(0282)20-7132  
E-mail kurara-tochigi@cc9.ne.jp  
HP <http://www.cc9.ne.jp/~kurara-tochigi/>



## パークパートナーののほい旗 お披露目でーす！

もう、こののほい旗をご覧になりましたか？前号で、デザインをしたケイさんがその思いを書いています。明るい緑と水色が印象的なのほいになりました。

### イベント 予定表

- ★10/3(日)9:00～12:30  
「虫と遊ぶ教室」バツタとぼし
- ★10/17(日)10:00～14:00  
カイトフォト展
- ★11/6・7(土・日)9:00～14:00  
凧づくり教室
- ★12/5(日)9:00～12:30  
「草と遊ぶ教室」リースづくり  
13:00～15:00  
凧づくり教室
- ★1/16(日)10:00～15:00  
第2回栃木凧あげ大会

## 気持ちのいい場所をみつけて芸術家になろう

とちぎ生きいき自然教室 重原純一

永野川緑地公園の中で、肩の力をぬいてリラックスして、辺りを見回してみましょ。なんとなく気持ちいいと感じるところが“マジック・スポット”といい、感性で自然のメッセージを受け止められる素敵な場所です。そんな場所にしばらく身をおいていると、普段見えないものがだんだん見えて・・・自然が何かを語りかけてくる。そんな時に、ふとアイデアが浮かんできたりしないでしょうか？

川のせせらぎを描いてみたり、落ちていた葉っぱでステンドグラスなんて素敵だな。

自分のセンスで素材を探すのもいいでしょう・・・。  
さて、緑地公園に行ってみるか。



### 「天使の影絵」

二枚の落ち葉の片方を  
天使型パンチで抜きます。  
この二枚を重ねて太陽に  
かざして、動かすと・・・  
ホラ！

天使が空を飛んでる！

## ～ 風あそび そのII ～

風あげクラブ会人会 岸 靖佳



江戸 奴凧



静岡県相良凧



下関 河豚凧



六郷鳶凧



風あそびの第2回は「日本の風あげの巻」です。クラブの名前「会人会」は Kite の音に人と人が会い集まり楽しむ願いを込めて命名したことは前回お伝えしました。凧も人々の願いや目的をもった色々な形のものが、風あげの文化をもつ各地方にあります。 皆さんが凧というと連想する奴凧は、江戸を代表する凧です。「奴凧」は江戸で鳶凧に奴の絵を描いたのが発祥といわれています。奴が武家の下級使用人でありながら、侠気があって腕がたち血気の勇ある者と言われ庶民に人気があったことから、奴のような人になってほしい願いをこめたものです。ほかに子供たちの成長を祈念するものとして、武者絵や桃太郎・金太郎が描かれたものがあります。また、長寿を願う鶴や亀の絵柄の凧や、金運・開運を願い恵比寿や大黒様を描いた凧。更に空を飛ばたい願いを込めた鳥の形の凧、地方の自慢として河豚や烏賊などの特産を描いたり象ったりする変わった形の凧もあります。日本には他国に例を見ないほど多くの種類の凧があります。

広い河川敷や海風に恵まれた地方には、凧をあげる文化が培われました。そして風あげを祭りとして楽しむようになったのです。

栃木に近い埼玉県春日部市(旧庄和町)は、風あげの文化が根付いた地域です。江戸川の河川敷で重さ800Kg、100畳敷大凧をあげる「大凧あげ祭り」が5月の連休に行なわれます。また、日本のみならず世界の凧を展示する「大凧会館」は地域のシンボルとなっています。日本や世界の多様な凧、そこには創意・工夫・情熱そして、地域の誇り・絆が息づいています。是非、栃木にも根付けばと願っています。

## 永野川緑地公園の魅力（2）バッタと遊ぼう -虫とりとポケモン-

作新学院大学女子短期大学部 青木章彦

「ゲット！」という言葉を知っていますか。

10年以上、宇都宮で「バッタと遊ぼう」という観察会をしています。この観察会で子どもたちがバッタを捕まえると、元氣よく「ゲット！」と叫びます。さて、子どもたちは、なぜ「ゲット！」と言うのでしょうか？それは、ゲームやアニメの世界で有名な「ポケモン」と関係して、ポケットモンスター（ポケモン）をモンスターボールで捕獲した時の掛け声が、「ゲット！」です。



ポケモンが一世を風靡したころ、どうしてポケモンが子どもから大人まで、さらには女の子までを巻き込んでブレイクしたのかを調べました。ポケモンには、「探す」、「捕まえる」、「集める」、「交換する」など、子どもが興味を示す要素が沢山盛り込まれています。さらにポケモンを紐解いていくと、最終的に作者・田尻智（注）の夏休みの思い出に行きあたりました。草むらで虫をとり、川や池で魚をとり、草や花をつんだ夏休みです。

永野川緑地公園には、芝生があり河原もあります。バッタの宝庫なんですね。バッタは環境の変化に敏感な虫です。芝生にバッタが少なくなってきたら、芝生の土が固くなってきたことが考えられます。バッタのメスは尻尾を地面に突き刺して卵を産みます。ですから、土が硬くなると卵が埋めなくて数が減るのです。果たして、今年の永野川のバッタは元氣

でしょうか？

10月3日には、子どもたちの元気な「ゲット！」が聞きたいものです。

(注) ポケモンの主人公の「サトシ」は智(さとし)、つまり、作者自身です。

## **ながの川たんけん隊、ミッション終了！！**

**7月24、25日、ながの川たんけん隊のファーストミッションが終了しました。参加してくれたのは、小学生の男の子、たまたま公園に遊びに来た親子のグループなど色々な人たちです。**

しかけやあみで捕まえた生き物たちは、パークセンターでスケッチして、永野川緑地公園のどこにいたのかを白地図の中に印しました。生き物地図(夏編)完成です。地図はくららに貼ってあるので是非見てくださいね。

活動中、子どもたちは生き物を見つけると目をキラキラさせていました。この子どもたちの目の輝きがさらに増すように、永野川緑地公園にいる生き物を皆さんに知ってもらえるように、生き物地図、秋編、冬編とつづけていく計画です。

生きもの地図以外でも、植物地図、危険場所地図など、緑地公園を訪れる人に役に立つ地図を作っていきたいと思います。興味のある人はぜひ参加してください。

たんけん隊で捕まえた生き物は、もちろん、もとの場所に帰しましたよ。

(ケイ)

## 永野川緑地公園はドクターヘリのランデブーポイント

ある土曜日の朝、永野川緑地公園に一機のヘリコプターがおりました。栃木県のドクターヘリ。河川敷で救急車から患者を移すと、急いで飛び立っていきました。

栃木県ではことし1月20日からドクターヘリが運航されています。救急医療機器を載せたヘリは獨協医科大学病院を基地にして、必要と判断された患者のため、医師(フライトドクター)と看護師(フライトナース)を乗せて出動します。救急車と合流するランデブーポイント(着陸地点)は8月末現在県内414か所。そのひとつが永野川緑地公園なのです。

栃木消防本部通信司令室 黒木一課長補佐の話によると、9月20日までに永野川緑地公園におりたのは12回。まわりに離着陸のじゃまになるような建物が少なく、芝生なので、土ぼこりをおさえるための散水の必要がない永野川河川敷は、ヘリのパイロットからも「管内で一番おしやすい」と言われているそうです。この条件のよさから、栃木消防本部では管内30か所のランデブーポイントの中で優先的に使うようにしているといいます。

ドクターヘリが飛んで来たとき、わたしたち河川敷やその周辺で遊ぶ人たちはどんな注意をしたらよいのでしょうか。

通信指令の出動要請と同時に、消防車が一台サイレンを鳴らしてランデブーポイントに向かいます。現場で隊員は、拡声器で「ドクターヘリが来ます」言いながら、そこにいる人たちを誘導します。わたしたちがまずすることはその指示に従うことです。犬の散歩中の人には必ずリードをして綱をしっかりと持ってください。犬が驚いたり、興奮したりでじゃまになることがあります。

ドクターヘリだからこそ助かった患者もたくさんあると聞きます。

(ねずみ)

## ～パークセンターで待ってます～

### ドラマー君

パークパートナーで大切な長身の若者です。パークセンター入口の高い所にある鍵を開けるのが毎土曜日最初の仕事です。いつも時間よりずっと早めに来て、準備しています。

東京の音楽専門学校の2年生。地下鉄後楽園駅まで通っています。7人編成の校内ロックアンサンブル「アフロスパンコール」のドラムを担当しています。

7月17日のチャレンジランキング大会では、8種類もの元気なゲームを提案して、アイディアマンぶりを見せてくれました。「こどもたちがはしゃぎながら遊んでくれたことがうれしかった」「スタッフとしていい企画を実施できて、自信がついた」と頬を赤らめます。

どこかでそのドラムの腕前、聴きたいですね。  
(ねずみ)

### おわびと訂正

「かえるのすみか」前号「ここ、どーこだ??」のカイトフォト撮影者は渡辺則生さん（日本カイトフォトグラフィー協会）の誤りでした。